



日本聖公会婦人会 2021年3月12日発行  
ニュースレター No. 72

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 2-1-8 日本聖公会大阪教区事務所内  
TEL 06-6621-2179 FAX 06-6621-3097

「何よりもまず 神の国と神の義を求めなさい。」  
(マタイによる福音書 6章 33節)

日本聖公会 首座主教  
ルカ 武藤 謙一



昨年末からの新型コロナウイルス感染者数の全国的な増加により、今も多くの  
方々が精神的にも経済的にも不安、孤独、閉塞感を感じながら過ごしておられます。  
教会でも主日礼拝を休止されているところもあります。礼拝を献げていても様々な理由で出席を控えて  
おられる方も少なくないと思います。また病院や施設で過ごしておられる方は親しい方との面会も出来  
ずに寂しさを感じておられることでしょう。このような時だからこそ、わたしたちは神の家族、主に在  
る兄弟姉妹の交わりを大切にしたいものです。直接会うことができないとしても、互いに祈り合い、声  
を掛け合うことが必要です。また教会の仲間に限らず周囲の方々にも心を寄せたいものです。知恵と力  
を用いて、誰もが互いに支え合って共に生きていることを実感できるよう小さな働きを一つひとつ積み  
重ねていきたいものです。きっとこれまでの各教区、教会の皆さんの交わりや活動がそのために活かさ  
れると信じます。

コロナ禍で、わたしたちは今まで当たり前だと思っていたことが、そうではないことに気づかされま  
した。また貧困や格差といった社会の歪みが顕著になり、豊かで活気があるようにみえていたわたした  
ちの社会、生活がいかに脆いものであるかが明らかになりました。また、わたしたちにとって本当に大  
切なもの、なくてはならないものは何かを改めて考えさせられました。この一年の間、わたしたちの生  
活は多くの制約を受け、人々の移動も制限されましたが、その結果でしょうか、世界各地で水質が向上  
した、野生動物たちの活動が活発になったというニュースも多く報道されました。早くコロナが収束し  
てほしいと誰もが願いますが、同時に、元の生活に戻ってよいのかとも考えます。マスコミでも「持続  
可能な開発目標」SDGs (Sustainable Development Goals) が盛んに取り上げられています。わたしたち  
は信仰者として自らの在り方を問い直し、核兵器廃絶、正義と平和を求めること、原発のない世界を求  
めること、気候温暖化を抑制すること、あらゆる暴力をなくすこと、貧困と格差をなくすことなど、す  
べての命の尊厳が守られる社会を実現する務めを、神様から託された宣教の業として励みたいものです。

日本聖公会婦人会に連なる皆さまの上に神様の祝福が豊かにありますようお祈りいたします。

## 2020年度被献日献金活用実施報告

被献日献金から学びの支援をさせていただいた方々の報告をお届けいたします。2021年度の申請をご検討される方々のご参考になればと思います。(2020年秋の報告を掲載しています。)

### 《 神学生枠 》



聖公会神学院 3年  
エリサベト <sup>みうら</sup> <sup>ちはる</sup> 三浦 千晴 (北海道教区)



主のみ名を賛美します。

日本聖公会婦人会に属しておられる皆様、今年度も被献日献金を通してお支えいただいておりますこと感謝いたします。

今年の被献日は主日でありましたが、皆様はその日どの様に過ごされておられたでしょうか。コロナウイルス感染のきざしが少しずつ見え始めてきていた頃だった様に記憶しております。現在とは全く異なる状況での礼拝が、今では懐かしく思い出されます。日本中の、さらには世界中の人々が、コロナウイルス感染に不安を抱きながら日常を過ごしております。教会の日常も様変わりいたしました。主日の礼拝を守ることができない、という経験をされている方もおありかと思えます。思いもしなかった事態に戸惑いを感じます。でもそんな中、今年も例年通り被献日献金により書籍を購入下さいましたこと、大変有り難く存じます。この困難な状況の中、労を担ってくださった方々を覚えます。

最終学年になり、これまで聖公会神学院にて学ばせていただいたこと、また実習させていただいたことが、神のみ前においてどういうことであったのかを言語化する時期を迎えました。今回購入いただいた書籍は、基本的にそのためのものであります。

『礼拝論入門』は説教で用いるテキスト、『宣教のパラダイム転換 上・下』は総合ゼミの時間に用いるテキストです。また『旧約新約聖書神学事典』はすべての教科の基礎となる事典であります。

この困難な時代に、私に一体何ができるのか。厳しい問いです。でも日本聖公会婦人会の皆様のお働きのように、どんな状況においても光を灯し続けていくこと、それが主に喜んでいただけるミッションであると信じつつ、これからも歩みを続けていきたいと希望します。





聖公会神学院 1年  
パウロ <sup>ふくなが すみ</sup> 福永 澄 (東京教区)



日本聖公会婦人会のお支えに感謝して  
主の御名を賛美します。

今年度、聖公会神学院に入学いたしました福永 澄と申します。日頃よりお祈りのうちに覚えてくださいますこと、そしてご支援をいただきまして、ありがとうございます。

この度は、貴重なお献げ物である被献日献金によって、10冊の書籍を購入させていただきましたこと、感謝をもってご報告いたします。詳細は以下の通りです。

『宣教のパラダイム転換』(上・下巻) デイヴィッド・ボッシュ著 全学年共通の学びである「総合ゼミ」のテキストです。聖書の時代から宗教改革、啓蒙主義から21世紀へと転換していく「宣教」について学ばせていただきました。この総合ゼミの学びは私にとって難しいものですが、教会史や聖公会論などでの学びにも役立つもので、神学を学ぶ意欲が高められています。

『イングランドの宗教』塚田 理著 1年次必修科目である「聖公会論」の授業で用いるテキストです。宗教改革の流れを理解するとともに、聖公会の歩んできた歴史、抱えてきた問題点や、その解決や展開を学ぶことができました。

『現代聖書講座』(1・2・3巻) 木田献一・荒井 献監修、『新版 総説新約聖書』大貫 隆・山内 眞監修こちらは、1年次必修科目である「旧約聖書入門」、「新約聖書入門」において参考書として利用させていただきました。新旧約聖書の基礎を学ぶ際に役立てています。

『ミサ』J.A.ユングマン著、『秘跡神学総論』ケナン・オズボーン著 この2冊は、1年次必修科目の「教会の礼拝1、2」において、参考書として利用させていただいています。

1年生である私の学びは、まだ始まったばかりです。皆様のお支えに感謝しつつ、これらの書籍での学びを土台として、これからも学び続けてまいりたいと思います。最後になりましたが、日本聖公会婦人会のお働きと、お一人おひとりの上に神様の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。



聖公会神学院 信徒の奉仕・召命コース  
ダニエル <sup>おぜき としあき</sup> 尾関 敏明 (北海道教区)



尊い被献日献金を、聖公会神学院での学びの支援としてお用い下さいましたこと、心より感謝申し上げます。神学院で使用される教科書や参考書類は、専門書であることから、一般書に比べて高額なものが多く、大変有効に活用させていただきました。私は「信徒の奉仕・召命コース」の学生ですので、12月には終了となりますが、購入した書籍は、どれも神学院で学んだ事をもとに、今後更にじっくりと深く学ぶためにも、一層貴重なものとなります。古典的な資料から、牧会史、そして新しい宣教のパラダイム転換など、私たちが今直面している課題に向き合ってゆくためにも大きな助けを与えてくれるものと考えております。

私は以下の書籍を購入させていただきました。

池田・大島・樋口・山我『新版 総説 旧約聖書』、フスト・ゴンザレス『キリスト教史 上・下』、具 正謨『典礼と秘跡のハンドブック I』、J.A.ユングマン『ミサ』、『聖ヒッポリュトスの使徒伝承』、デビッド・ボッ

シュ『宣教のパラダイム転換 上・下』

被献日献金をお捧げくださった皆さまに、心よりお礼を申し上げます。



聖公会神学院 信徒の奉仕・召命コース  
セバスチャン そめや たかあき 染谷 孝章 (横浜教区)



歴史ある被献日献金の尊いお支えにより手元に届きました書籍は、『イングランドの宗教』(塚田 理)、『聖公会の聖歌』(宮崎 光)、『新約聖書ギリシア語基礎』(土岐健治)、『旧約新約聖書神学辞典』、『論集 典礼と秘跡』(具 正謨)、『キリスト教史』(フスト・ゴンザレス)、『現代聖書講座』です。主に各授業の教材として毎週使わせていただきました。改めて感謝申し上げます。

既に他の寄稿にも書かせていただきましたが、この一年を振り返りますといくつかの学びがありました。まず歴史を通して、聖典、信条が整えられてゆく過程に、多くの人が携わってきたことを知りました。教義を闘わせ、命を捧げて守ってきた時代に自分を置き、おかげで今の聖書や信経があることを噛み締めています。また聖公会が持つ豊かさを再認識しました。真理の確かさは絶対的なものではなく蓋然性の上に成り立っているとする謙虚な姿勢に改めて愛着を感じます。更に今年から開講した「信徒の奉仕・召命コース」の授業(\*)では教会共同体(聖職と信徒)のあり方に指針を与えていただきました。

座学を離れての教会実習では、イエスが一貫して示しておられる視座を見出そうとしながら感じる自分の非力さに正面から向き合うとき、「自分のからだ全体で神学」するようにと恩師から励まされた言葉が心に刻まれます。聖職候補生としての道行きでこうした思いは繰り返されるのでしょうか。主を信じて祈り歩んでまいりたいと思います。

(\*)「信徒のための宣教とミニストリー」(中村邦介校長)、「信徒による礼拝と勧話」(市原信太郎司祭)



聖公会神学院 信徒の奉仕・召命コース  
ミカエル なおい がく 直井 岳 (北海道教区)

主の平安がみなさまと共にありますように。

この度は、被献日献金のお支えで、神学院での学びをさらに深めるために、書籍を購入させていただきました。ありがとうございます。

以下が購入させていただいた書籍の名称です。

①『イングランドの宗教』②『聖公会の聖歌』③『キリスト教神学の入門』④『ミサ きのおきょう』⑤『ギリシア語新約聖書 ネストレ28版』⑥『礼拝論入門』⑦『新約聖書ギリシア語初歩』⑧『増補改訂 新約ギリシア語辞典』

特に、『新約聖書ギリシア語初歩』と『新約ギリシア語辞典』はギリシア語の授業において、ギリシア語の文法などの基礎の学びの助け、またギリシア語の単語を調べる際に、とても役立っております。また、『イン

『グランドの宗教』は聖公会論の授業で使わせていただき、聖公会の歴史などの学びを通して、わたしたちキリスト者が今抱える、さまざまな課題にどう向き合うかを考えるきっかけになりました。

いち信徒として、また神学院においてキリストの道を学ぶ者として、婦人会のお支えを日々感じて、神学院での学びの中にあります。今コロナウイルスの中であって、わたしたち神の民である信徒がしっかり向き合い忘れてはいけないことは、「共に」という気持ち。これは婦人会のみなさまが常に日頃より、キリストを通して働かれ、ご奉仕されている支え合いと助け合いの精神にあります。わたしたち信徒は、この精神を忘れず、この苦難の時を「共に」乗り越えなければなりません。

このような神学院での恵まれた環境での学びはもちろん、神様と向き合い、自分を見つめ直す機会に心から感謝しています。このお恵みは 全国の婦人会の皆さまのお祈りとお支えの上にあります。心より感謝申し上げますとともに、婦人会のさらなるお働きの上に、神さまのお導きとお恵みがあるようにお祈りいたしております。



ウイリアムス神学館 2年  
ダビデ <sup>さとう みつる</sup> 佐藤 充 (九州教区)



昨年に引き続き、今年度も被献日献金からの補助を頂き、書籍を購入させて頂きました。今年度は、聖書注解書を中心に購入しました。神学館の先生方にご相談し、推薦して頂いた『NTJ 新約聖書注解』ガラテヤ書簡(浅野淳博著)、ルカ福音書(嶺重 淑著)や、『EKK 新約聖書註解』マタイによる福音書、テサロニケ人への手紙、また『新約聖書訳と註』使徒行伝、ヨハネ福音書、マルコ福音書/マタイ福音書(田川建三著)を揃える事が出来ました。

神学館には退職された先生方から本の寄贈もありますが、特に注解書は先生方も大切にされているようなかなか頂けず、頂けたとしても希望する神学生が多く、手に入れる事が困難でした。また、今回は補助を頂いたおかげで、刊行されて間もない本も購入する事ができました。注解書は神学校での学びだけでなく、卒業後に教会で勤務させて頂くようになった際、奨励や説教、聖書勉強会などで必要となります。注解書を活用する事で、聖書箇所ごとの言葉の意味や、時代背景、社会情勢、他の聖書箇所との繋がりなどを調べる事が出来るようになります。キリスト教専門書はどれも高額で、特に注解書は細かい記述がある反面、特に高額なものが多く、冊数も多くなります。そんな、個人的に購入するにはかなり困難な本が今回購入でき、とても感謝しています。

実際に今年受講している授業で出された課題を調べるために、今回購入させて頂いた書籍を活用させて頂いた事もありました。3年生になるとより実践的な授業になるので、より必要頻度も上がると聞いています。今回、購入させて頂いた本を活用し、さらに学びを深め、教会での働きに繋げられる様、学業に励んで参りたいと思います。





ウイリアムス神学館 1年  
ステパノ <sup>たかの ひろし</sup> 高野 洋 (横浜教区)



婦人会を通じた聖職者をはじめ神学を学ぶ者を支える働きを心から感謝致します。

さて、いきなりではありますが、わたしは正直なところ、申請させて頂くことを迷いました。献金を活用させて頂くことは、金品を頂くとともに、その心を頂くことです。「本当に神学校の学びについて行けるのだろうか、自分で良いのであろうか」と日々迷いながら学び生活する神学生にとっては、大きな力を頂くとともにこの献金を使わせて頂く覚悟が必要だと感じたのです。「愛のために至誠の心を持って、惜しまず与える人は大なり、されど愛のために臆せず物を受ける人はさらに大なる人と称えん」(アデレイド・A・プロクター)という言葉が内村鑑三氏の書籍に引用されています。しかし、私は心を頂く覚悟がない、心の定まっていな者なのです。頼りない神学生ですが、あえてそのお心を頂くことで自らの迷いを少しずつ取り去って行くことにつなげたい。そう願ってこの度申請させて頂きました。

今回購入させて頂いた書籍は、聖書の註解書(『新約聖書注解』新共同訳)、ギリシャ語の辞典(『新約聖書ギリシア語辞典』キリスト新聞社)、キリスト教史の書籍(フスト・ゴンザレス著)です。わたしは学び始めて間もないため、必要な書籍が手元にありませんでした。そのため高度な専門書ではなく、これから先も長期に渡って使える図書を購入させて頂きました。特に聖書時代から今日に至るキリスト教に関する広範な歴史書は、むしろ現在進行中の教科書を補完し、私には理解し易く有難く活用させて頂いております。

今回の書籍や皆さまのお心により助けられ、神学校の学びが力となり引き続き聖職への学びに繋がることになるよう過ごしてまいります。

最後に日本聖公会婦人会の働き、また婦人会の皆さまに主の祝福がありますようにお祈り申し上げます。



ウイリアムス神学館 1年  
サムエル <sup>ふじい かずひと</sup> 藤井 和人 (京都教区)



主の平和がありますように。

この度は、被献日献金活用の申請を承認していただきありがとうございます。今回は、『新共同訳旧約聖書注解』(日本基督教団出版局)のIとIIを購入させていただきました。この申請書籍は、プロテスタントとカトリック両教会が共同となって翻訳した『新共同訳 聖書』に基づいたコンパクトな注解書です。この注解書には、多くの執筆者によって、それぞれ自らの学問的方法論から聖書解釈がなされており、聖書の学びにおいては、重要でかつ基礎的な資料です。私は、学部・大学院の時から聖書学に関心がありました。牧師を目指そうと思ったのも、聖書のことをもっと知りたい、そしてその聖書のメッセージをいつか誰かに伝えたいと思ったのがきっかけでした。聖書を読んでおられますと、時にわからないことも多くありますが、それでも、一つ一つのみ言葉を味わいながら、自分の内部に湧いてくる神様の真実性やその奥深さ、また人間の持つリアリティーをひしひしと感ずることがあります。特にこれらの実感を持つためには、聖書が書かれた歴史的背景や基礎的な聖書学的方法論を学んでいく必要があると改めて感じております。これからも神学校で、また牧会に出た後も、そのような聖書の学びをさらに進めていきたいと思っております。そのためにも、この度申請させていただきましたこの書籍を今後とも継続的に活用させていただきます。

いつもお祈りの内に、また多方面にわたりお支えをいただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。これからも神様のみ言葉に励まされ、日々生かされていることに感謝しながら歩んで参ります。これからも、日本聖公会婦人会に連なるすべての方々に神様の豊かな祝福とお恵みがありますようにお祈りいたしております。



ウィリアムス神学館 1年  
ダビデ 梁 權模 (京都教区)

この度の被献日献金を活用し、私は「七十人訳聖書」の英訳版『The New English Translation of the Septuagint』と『Oxford Dictionary of the Christian Church (オクスフォードキリスト教会事典)』を購入させていただきました。前者は、現在私たちが礼拝の中で用いている聖書と「七十人訳聖書」の表現及びその中に含まれている意味を比較することによって、より深く聖書のことを学べると思ったからです。しかし、「七十人訳聖書」はギリシア語であるため、まずはその英訳版を見ようと思った次第です。そして後者は、日本で出版されている『キリスト教大事典』も有益なのですが、それよりも詳しく解説されている部分もあり、レポート課題にも役立つと耳にしたため選ばせていただきました。これら二つの書を実際手にしてみると、英訳版の「七十人訳聖書」は、授業でおこなった、普段手にしている旧約聖書の内容と「七十人訳聖書」の内容とを比べながら勉強する方法に活用することができました。英訳の文章は辞書を常に引く必要があるほど難しい文章ではなく、高校英語より多少レベルの高い程度の英語で書かれていたので助かりました。また、『オクスフォードキリスト教会事典』は、教会用語やキリスト教神学用語などの解説が詳しく書かれていて、レポート課題を作成するにあたりかなり有意義に活用することができました。教会史の授業で課題が出されたときも、授業の中で扱った神学用語や集団、共同体などを調べる際に、この事典の詳しい解説が手がかかりとなり、とても助かりました。今回の被献日献金を活用して購入させていただいたこれら二冊は、私の勉強において大変役に立つ書籍です。私たち神学生の勉学のために尊いご献金により支援して下さった日本聖公会婦人会の皆様に深く感謝いたします。



## 《 聖職候補生枠 》

執事 ルカ 宮田 裕三 (神戸教区)



聖職候補生枠で申請しご承認いただき感謝です。

6月20日(土)に徳島インマヌエル教会に於いて執事按手を受けました。徳島の地において奉仕しております。コロナ禍において様々な事柄に変化が起きました。変化に柔軟に対応出来る人、変化を拒否する人、変化にストレスを感じる人、変化をチャンスとして活かす人、そのどれもが一様ではなく、様々な思いが交錯していると思います。私たちのキリスト教もその始まりから常に変化をし続けています。私がいつも中心に置いている言葉があります。「今に生きるキリスト(救い主イエス)」という言葉です。「キリストは今も生きている、常に私た

ちとともに歩んでいる」という確信によって信仰の道を歩んでいます。「今に生きるキリスト」をリアルなものとして捉えるとき、コロナ禍のような困難で先の見えない状況において、イエスはどのような思いを持つのかということに常に黙想しています。

神は始まりから「求めよ、そして生きよ」と呼びかけています。「生きよ」との呼びかけに応える私たちは、すべてに優先して命を守る行動が優先されます。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない(ヨハネ 15:13)」を引き合いに出して、無理をすることが素晴らしいと考える方もいらっしゃいます。しかし、すでにイエスが十字架において自らの命を捧げることによって、私たちに代わって私たちの罪を償って下さいました。イエスの命と引き換えに活かされている私たちは、その命を最大限に大切にして、明日へと希望の光をリレーをする役割を担っています。

コロナ禍において、今までとは違う日常が日常となりつつあります。教会生活においても今までとは違う働きが求められているのだと思います。「歴史を学ぶこと」ではなく「歴史“から”学ぶこと」を忘れずに、被献日献金によって購入した書籍類を活用していきたいと思います。ありがとうございました。



## 《 コア枠 》

感謝箱献金事務局 (コア)

運営委員長 リベカ 永井 眞由美

2020年度被献日献金を感謝箱献金事務局(コア)の研修のためとして20万円頂きました。

本来ですと、お献げ先や関係団体の報告会、講演会にスタッフが出席し色々な学びの機会となるのですが・・・ 昨年はCOVID-19感染拡大により、ほぼ全ての会が中止になりました。唯一、年末にケニアの「サイディア・フラハ」の荒川氏と子ども達とオンライン交流会を行いました。この時の様子は『ガリラヤのほitori 35号』に掲載しております。

この3月11日で東日本大震災から10年が経ちます。「もう10年・・・」「まだ10年・・・」とそれぞれの想いは違いますが、被災直後から被災地に入れ、現在もずーっと被災者の傍におられる「釜石支援センター 望」の海老原氏からのご報告も『ガリラヤのほitori 35号』に掲載しております。

ニュースレターに同封されております『ガリラヤのほitori 35号』を是非ご一読いただければ幸いです。

### 編集後記

日本列島はすっかり春の気配に包まれ、各地の花だよりが楽しめる季節になりました。

今回は、昨年度に被献日献金活用により支援させて頂いた神学生と聖職候補生の皆さまの報告を掲載しています。一年だけ神学院で生活し「信徒の奉仕・召命コース」で学ばれた方にも支援させて頂きました。昨年は有志グループ等の活動が全く開催できなかったことが本当に残念ではありますが、今のステイホーム生活が今後の学びの良いヒントになればと願っております。

会長 ハンナ 井上 恵美子

☆『ニュースレター』は、日本聖公会婦人会ホームページ (<http://www.nskk.org/fujinkai/>) でもご覧いただけます。